

## 歴史の分岐点

園長 児嶋 草次郎

シャガールの絵の中のバイオリン弾きのような恰好をして、彼の魂はこの度のロシア・ウクライナ戦争で亡くなった人々の鎮魂のために、あの広大な大地の空の上を、バイオリンを弾きながら飛び回っているのではないか。

4月22日に行われた稲田竜斗追悼コンサートで、妻の由香里さんの力強く鬼気迫るピアノ演奏に耳を傾けているうちに、いつの間にか引き込まれていき、そのような妄想を抱きました。

二人はモスクワ国立音楽院卒。由香里さんの地元高鍋を拠点に音楽活動をされていましたが、昨年10月、バイオリニストの竜斗さんが急逝されたのです。竜斗さんを追悼するためのコンサートであったのに、目をつむるとその調べは地を越え、時を越え、戦争で亡くなった人々への、二人の演奏による鎮魂歌のように聞こえて来ました。確かに彼はチャイコフスキーを弾いていた。

それより3日前、書家で篆刻（てんこく）家の師村妙石先生より、昨年10月に宮崎市佐土原交流プラザで開催された個展を特集した「日本書法」（書道芸術社）54号と、中国各地での個展を特集した「日本書法」の抜刷47号（2018年河南省中国文字博物館）、48号（2018年中国美術館）、50号（2019年浙江省国立呉昌碩記念館）が送られて来ました。

師村先生は、呉昌碩（ごしょうせき）関係で私の兄とも交流があり、また友愛社の障がい者グループホーム「明水苑」の土地建物を寄贈して下さった鬼塚正信様の御友人（明水苑の看板の文字も書いてくださいました）ということで御縁ができたのです。しかし、実際にお会いできたのは昨年です。先ほどの佐土原交流プラザでの個展にも招待してくださいました。同じ団塊の世代ということで気安く構えていたのですが、世界レベルで、特に中国で大活躍されている方だと知り、恐れ入りました。私は自分の文字が汚く常に皆様に御迷惑をおかけしている人間であり、師村先生の文字の奥深さについては、残念ながら全く理解できていませんでした。

ところが今回、ロシアとウクライナとの戦争についてアレコレと考えさせられているときであり、その文化・芸術の力について、なにか覚醒させられたような気持ちになっています。

お礼状には、次のようなことを書かせていただきました。

田舎で静かに生きている人間からすると、師村先生の世界的御活躍は目映いばかりです。特に「訪中223回、中国での個展31回」は圧倒的ですね。中国文字博物館館長・副館長が、「中国人民に対する友好の意と、中国文化に対する途絶えぬ愛を反映している」と書いておられますが、こういう文化交流が国と国を結びつけ、また平和を作り出しているのだろうと想像することができました。我々一般人の見えないところで、このような外交が行われているのだと感じました。そういう意味では、平和への師村先生の貢献度は相当なものなのだろうと思います。この話は、芸術そのものとは別の話かもしれませんが、芸術には、人と人との交流を生み、魂（心）と魂（心）を融合させ平和を作り出す力があるのだと感じます。

先ほどの中国文字博物館長・副館長さんは次のようにもおっしゃっています。まさに心と心との交

流だと感じます。

「中国の伝統篆刻に対して、大胆にイノベーションを起こし『方寸の世界』を突破した。」

「独特な『師村派』篆刻芸術の風格が打ち立てられている。」

「まるで清風が頬を撫でて心の奥まで届くように、味わい深く感じ取れよう。」

その後、私の文字が汚くて読めないため、「何と読むのか」と、二度ほど師村先生からその後お電話があり、大変申し訳ないことでした。

このように、私たちの見えない所で、様々な文化交流が行われているのだろうと感じます。そして、互いの平和を生み出しているのでしょうか。そういうグローバルゼーションの浸透している現代の世界の中で、なぜ、今回ロシアはウクライナに軍事進攻したのか、気になって仕方ありません。

ここまで書いたところで、電話が鳴りました。以下は、その対談です。

A氏 やあ御無沙汰しています。「友愛通信」をいつも楽しみにしています。4月号で、大原孫三郎が少年時代、閑谷学校でいじめを体験したことが石井十次に近づく動機になったという仮説はおもしろいと思いました。生まれも育ちも全く違う人間が、心を通わせるなんてことはなかなか難しい。それから、今春大学を卒業したT・N君の「後輩たちへ」の文章もよかった。福祉のことはよく分からないけど、保育士、社会福祉士、精神保健福祉士の三つの国家資格を4年間で取れたというのはすごいね。「友愛園での生活はどこ施設にも負けないものです。自信と誇りをもって生活してください」という後輩たちへの鼓舞激励も良いね。後援会員の一人として、彼の成長をうれしく思いました。

ところで、今日電話したのは、「通信」の中で、ロシアとウクライナの戦争のことが少し書いてあって、私も憂慮しているので、少し話をしてみたいと思いました。

私 ありがとうございます。私たちは団塊の世代の人間です。戦争は直接には知られないけど、父はノモンハンで歩兵としてソ連と戦い、地獄の中から生還した人間でしたので、戦争への嫌悪感、その言動から感じる事ができました。戦争は悪だと思います。日本は、太平洋戦争で敗戦し、そのみじめさをしっかり噛みしめ大いに反省し、その後アメリカや国連を信じ、アメリカの庇護の下復興に努め、平和を築きあげて来ました。憲法前文にもあるように「平和を愛する諸国民の公正と信義」を信頼して云々という言葉のとおり、「世界は一つ」へ向かって前進していくのだという感覚を持って生きて来ました。

世界で色んな紛争は続いて来けど、大国はしっかり未来を見つめているのだと信じて来ました。しかし、今回のロシアのウクライナへの侵攻をみていると、あの太平洋戦争の戦勝国側の価値観は、この75年間、ほぼなにも変わってないのではないかと感じてきています。この状況を、子供たちにどう教えるのかも大きな課題です。

A氏 私も同感です。戦勝国の価値観と言いましたが、ロシアだけではなく、基本的にはアメリカ、イギリス、フランス、中国、みんな変わってない気がする。1990年のドイツ再統一交渉の中で、アメリカは、NATO(北太平洋条約機構)を東方に拡大しないことをソ連に約束したと言われている。ところが、その後チェコ、ハンガリー、ポーランド、バルト三国などが次々にNATOに加盟している。ソ連崩壊は1991年。それにともないウクライナが独立。ウクライナ、カザフスタン、ベラルーシにあったソ連時代の核兵器をロシアに移す時の条約が「ブダペスト合意」(1994年)三国に核兵器を放棄させる代わりに、独立、主権、国境を米、英、露は保障するとした。仏、中国もその後保障を約束した。ところが、2014年、ロシアは一方的にウクライナのクリミア半島に侵攻し、ロシアに編入してしまった。保障した米、英、仏、中はほとんどなにもできなかった

た。この大国同士の関係は、ほぼだまし合いみたいなものだ。大国は常に自分たちのことしか考えておらず、小国が常にその犠牲になって来ている。ちょっと言いすぎたかな。

私 今回、どうしてロシアはウクライナに侵攻したのでしょうか。クリミア半島だけでは満足できなかったのか。クリミア半島にはほとんどロシア人が住んでいたのに、ソ連時代に一方的にウクライナ地方に編入されていたと聞いたことがあります。今回ウクライナの首都を攻めようというのは、明らかに国を乗っ取ろうとしているように見える。同じスラブ系民族であるのに仲良くできないのでしょうか。

A氏 ロシアは、帝政、ソ連時代を通してウクライナを支配して来ている。言わば兄弟国家。プーチンはソ連時代のような大国にもどしたい、スラブ文明圏をまた再興したいという野望を持っているのだと思う。ソ連が解体して、次々に NATO 側に兄弟と思っていた国々が加盟していくのが許せないのだと思う。ウクライナもゼレンスキー政権になって、NATO 加盟を模索し始めていたようだ。ゼレンスキーがコメディ俳優出身ということで、攻めこんで脅せば、すぐ白旗をあげると、なめていたのでしょうか。そこが大国の思い上がりだ。

私 それにしても病院、施設、学校にまで次々にミサイル攻撃し、また支配した地域では、拷問、女性への暴行を行ったり、多くの民間人の命を奪っている。戦争犯罪と言われていますが、許せないことです。500 万人以上が隣国に避難しています。

A氏 こういう所が、大国の価値観は 75 年以上前の第二次世界大戦当時と変わってないとする私の根拠です。当時、日本人の多くの民間人が、ソ連兵から殺されたり陵辱（りょうじょく）されたりした。

今回の戦争ではっきりしたことが一つあります。ウクライナが西欧諸国に助けをくれと言ってもだれも一緒に戦ってくれない。それはなぜか。プーチンが核で脅すからです。ゼレンスキーが国から逃げ出していたら、おそらくクリミア侵攻の時と同じように、ロシアは何なくウクライナを属国化していたでしょう。ゼレンスキーはりっぱだった。国土面積は日本の 1.6 倍、人口は 4000 万人のウクライナ国を、命をかけて守ろうとしている。今やヒーローです。これはプーチンの誤算で、欧米が一致して兵器や資金を提供している。しかし、昔の兄弟も一緒には戦わない。厳しい現実です。

核をちらつかせる大国の仕掛けた戦争には、第三国は、第三次世界大戦を恐れてなかなか介入はできない、これが今回得た教訓です。中国も中華帝国の再興なのか、膨張路線を突っ走っています。国会議員のある女性議員がおっしゃっていたけど、「自分の国を守る意思や気概のない国を、他の国は助けない」を噛み締めています。

私 私は軍人でもないし、政治家でもないで、そこまでは考えがおよばないのですが、庶民レベルで、戦争のない平和な地域社会を維持していくために、私たちのやるべきことは何かということを考えています。私たちが親の後ろ姿を見て育ったように、ここの子供たちも私たちの後ろ姿を見ている。第三次世界大戦に発展しかねないこの戦争に対して、無関心を装うことは許されないと思います。戦争はダメだという私達のスタンスを感じさせることで、子供たちの価値観も作られていく。私たちの仕事を「支援」だという人権主義者もいるけど、支援というのは人格の出来上がった人へのサポートのこと。これから人格を作っていく子供たちに対しては、やはり「教育」です。「共育」と言ってもよいかもしれません。

A氏 そこが大事だね。子供たちがどうとらえているのだろうか、そこも気になっていた所です。この戦争は長期化すると予想されている。しっかり教えていかねばならない。これから我々日本

人（おとな）が問われるのは、日本人としての立ち位置だと思う。そこもしっかり整理しておかないと、子供の前には立てまい。

あなたが最初に「世界は一つに向かって前進していく」と言ったけど、今の状況では無理だね。国連が大国の価値観に支配されて機能してない。国連の改革も必要だ。それに、確かにロシアはひどいことをやっているけど、ロシアは悪で米を中心とする西欧は善とするようなとらえ方も問題だと思う。ソ連が崩壊してアメリカ一強の時代がしばらく続いて、「アメリカ」が世界の警察官的存在になったよね。しかし、中東から撤退する状況の中で、その力にかけりも見られるようになって来た。アメリカの思い上がりもあった。日本もこのままアメリカの庇護の中で生きていけるのか考えなければならない。問題は移民国家アメリカの価値観を善として他国に押しつけること。個人主義的な民主主義もそうだろうし、グローバルな市場競争もそうだろう。価値は一つではなく、それぞれの国の精神風土や文化を、もっと互いに尊重し合わねばならないと思う。アメリカ流のグローバリズムが、このコロナで頓挫したような形になっているけど、立ち止まって反省してみるべき時だと思う。その間隙をぬってロシアが出て来た。

私　そうですね。ゼレンスキーさんが3月24日の日本の国会のオンライン演説の中で、日本人の、調和をつくり、維持し、環境や文化を守る能力が素晴らしいと言われたのが印象的でしたけど、キーワードは、互いの歴史、精神風土、文化でしょうね。何もかにもアメリカナイズされるのではなく、日本独自の歴史、精神風土、文化をしっかり守っていく。そのことが、国と国との交渉において大事なのだと気付かされたような気がします。人と人との交流は価値の押しつけではなく、互いの文化の交流なのだという気持ちを忘れてはいけないと思います。

A氏　昨年、あなたたちが行っていた「日本の福祉文化と子どもの未来を守る」署名活動も、日本の文化を守る運動の一つと言ってもよいかもかもしれません。里親委託率70%以上というのは、英語圏の国々の歴史と文化の産物ですが、国連からの圧力があっても、その数字に日本も強引に合わせようとするのは、価値観の一つの押しつけです。一つの小さな例かもしれないけど、アメリカの支配する国連がそういう姿勢になって来ているのかもしれない。ロシアや中国が一番嫌うことでしょう。

私　ありがとうございます。5月1日の読売新聞に「里子40人連れ1000キロ避難」という記事が写真入りで載っていました。ちょうどその夜が子供たちの反省会でしたので、この記事をみんなの前で読み、ウクライナの子供たちの支援のために募金をすることにしました。ウクライナではこどもの3分の2にあたる480万人が国内外に避難を強いられている、と書かれてあります。里子40人と書いてありますが、一つの施設と言ってもよいでしょう。約40日間の地下生活を経て、水道、電気も止まり、周辺も砲撃されるようになり、バスで1000キロ避難したというのです。1000キロと言えばここから宮城県あたりまで行ってしまいます。

子供たちを守らなければ、その国の未来はない。毎日終戦を祈りながらも、私たちのできることをしたいと思います。

A氏　今、子育てや教育にたずさわっている大人たちは皆自覚しなければならない。日本という国はヨーロッパからユーラシア大陸の国々やアメリカ大陸の国々とも違う、独自の歴史と精神文化を持つ国です。回りにただ迎合するだけでなく、誇りと気概を持った次の世代を育てられることを期待します。めざすべきは、やはりだれかが言っていた、グローバルとローカルを合わせたグローバルだね。今日はありがとうございました。